

超えるVol.3

バッハを越えて

2019

2/23

Sat

東京オペラシティ 18:30開場
リサイタルホール 19:00開演

出演者

Ensemble NOMAD

木ノ脇道元 (fl) 菊地秀夫 (cl)
野口千代光・花田和加子 (vn)
甲斐史子 (va) 佐藤洋嗣 (cb)
中川賢一 (pf) 宮本典子 (perc)
佐藤紀雄 (cond)

Guests

林 憲秀 (ob) 大石将紀 (sax)
佐藤秀徳 (tp) 松本卓以 (vc) 大友良英 (comp)
今井慎太郎 (comp) ダースレイダー (rap)
アラス ムハンメッド ラーシッド (アザーン朗唱)
アンサンブル小瑠璃 (choir)
音響:片桐健順 / soundcraft LIVE DESIGN
ステージデザイン:都築利晴

- J.S.バッハ:ミサ曲口短調BWV.232より (1724-1749)
Johann Sebastian Bach: Missa in b minor, BWV.232
- シュテファン・ヴォルペ:「ミディアンからの男」より“神との対話”(1942)
Stefan Wolpe: "Conversation with God" from The Man from Midian
- アルヴォ・ペルト:何年も前のことだった (1984)
Arvo Pärt: Es sang vor langen Jahren
- 星谷文生:夜曲 (2019)
Takeo Hoshiya: Nocturne
- 藤倉 大:「世界への私の手紙」より (2014/2018) -アンサンブル版世界初演
Dai Fujikura: From "My Letter to the World" -ensemble version world premiere
- エベルト・バスケス:星 (2014) -改訂世界初演
Hebert Vázquez: Icnocuatle -revised version world premiere
- ヤコブTV:シラクーザ・ブルース (2013)
Jacob TV: Syracuse Blues
- モーリス・ラヴェル:「2つのヘブライの歌」より“カディッシュ”(1914)
Maurice Ravel: Kaddisch from "2 Mélodies hébraïques"
- アタナス・ウルクズノフ (編):ビザンティン聖歌 (2018)
Atanas Ourkouzounov (arr): Byzantine Hymn
- ディエゴ・ヤスカレヴィッチ:キリエ (2018年版)
Diego Jascalevichi: Kyrie
- 間宮芳生:「合唱のためのエチュード」より (1983-1999)
Yoshio Mamiya: From "Etudes for Chorus"

その他

チケット

【前売】

一般 ¥3,000
大学生 ¥2,000
高校生以下 ¥1,000

【当日】

一般 ¥3,500
大学生 ¥2,500
高校生以下 ¥1,500

就学前のお子様の同伴・ご来場は
ご遠慮下さい。

チケット取り扱い

東京オペラシティチケットセンター Tel: 03-5353-9999

マネジメント・お問い合わせ

キーノート Tel: 0422-44-1165 keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp

Guests



林 憲秀 (ob)



大石将紀 (sax)



佐藤秀徳 (tp)



松本卓以 (vc)



大友良英 (comp)



今井慎太郎 (comp)



ダースレイダー (rap)



アラスムハンメドラーシド
(アザーン朗唱)

アンサンブル小瑠璃



藤崎美苗 (sop)



澤江衣里 (sop)



青木洋也 (alt)



布施奈緒子 (alt)



高橋ちはる (alt)



石川洋人 (ten)



藤井雄介 (ten)



藤井大輔 (bar)



藪内俊弥 (bar)

超えるVol.3 バッハを越えて

バッハは晩年に対峙する宗派であるカソリックの典礼形式であるミサ曲『ミサ曲口短調』を作曲した。完成した作品は典礼という機会音楽の域を遥かに越えて、人類の遺産とも言うべき音楽作品として今に伝えられている。このプログラムでは、バッハの精神を更に敷衍させ、世界の様々な宗教の音や声に耳を傾けてみたい。人々の命の拠りどころとするそれらの声には私達を惹きつけてやまない香り高い美しさがあります。各宗教に直接問いかける前に、祈りの声や音に耳を傾けてみましょう。 佐藤紀雄



© Maki Takagi

今回の出演者:木ノ脇道元 (fl) 菊地秀夫 (cl) 野口千代光・花田和加子 (vn) 甲斐史子 (va) 佐藤洋嗣 (cb) 中川賢一 (pf) 宮本典子 (perc) 佐藤紀雄 (cond)

Ensemble NOMAD

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年に行った定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は大きな反響をよび、サントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」を、2015年に行った定期演奏会「再生へVol.3:祈り〜エストニアから震災復興を祈るコンサート」により「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞した。海外からの招待も多く、2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」、2005年11月パリで行われた「フェスティバル・アテンポ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また2008年10月にはソウルでの「バン・ムジーク・フェスティバル」などに出演。2009年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行ない、好評を博した。2011年には2度目の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニアとオランダで公演を開催。2014年にはメキシコのセルバンティーノ音楽祭に日本を代表するアンサンブルの1つとして招聘された。2015年12月には再び中国四川公演を行ったほか、今後も中国、オランダやドイツ、フランスなどでの公演を予定している。

また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪問コンサートやワークショップを行なっている。

CDは、近藤 謙「梶子」(ALCD-47)、「空の眺め」(ALCD-57)、「オリエント・オリエンテーション」(ALCD-67)、「表面・奥行き・色彩」(ALCD-93)、石田秀実「神聖な杜の湿り気を運ぶもの」(ALCD-60)、池辺晋一郎「炎の資格」(CMCD-28121)、福士則夫「花降る森」(CMCD-28128)が発売されている。海外ではエベルト・バスケスの「Bestiario(動物寓話集)」が2011年に、「Pruebas de vida(生命の証)」が2015年にリリースされ、2014年にはオリジナル・アルバム「めぐる一Meguru」をリリース。2015年夏から秋にリリースされた「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。

公式ウェブサイト: www.ensemble-nomad.com/



東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティB1F
Tel: 03-5353-0788
京王新線「初台駅」東口下車徒歩3分